

長良川河口堰管理所の閘門ポンプ室の浸水について（第二報）

- 独立行政法人水資源機構長良川河口堰管理所が管理する長良川河口堰において、24日9時30分頃に確認した閘門（船通し）の除塩ポンプ室の浸水に関する調査結果を報告します。
- 24日13時30分頃から開始した除塩ポンプ室の排水作業は完了し、本日16時現在、ポンプ室内に浸水は認められません。
- 現在、堰上流に塩水は遡上していません。
- 堰の操作及び閘門ゲートの操作に影響は無く、通船は可能です。
- 調査の結果、3基ある除塩ポンプのうち、1基の除塩ポンプ吸水管に約2cmの欠損を確認しました。浸水の原因は、閘門から河川水が欠損箇所を通じてポンプ室に流れ込んだためと考えられます。
- 併せてその他の2基の除塩ポンプについて調査した結果、同様の損傷や異常は認められませんでした。
- 今後、除塩ポンプ吸水管の欠損箇所については修復を行い、早期復旧に努めて参ります。

※ 閘門操作の説明：下記アドレスを参照してください。

Webアドレス https://www.water.go.jp/chubu/nagara/23_shisetsu/koumon.html

令和3年5月26日



独立行政法人 水資源機構

長良川河口堰管理所

発表記者クラブ

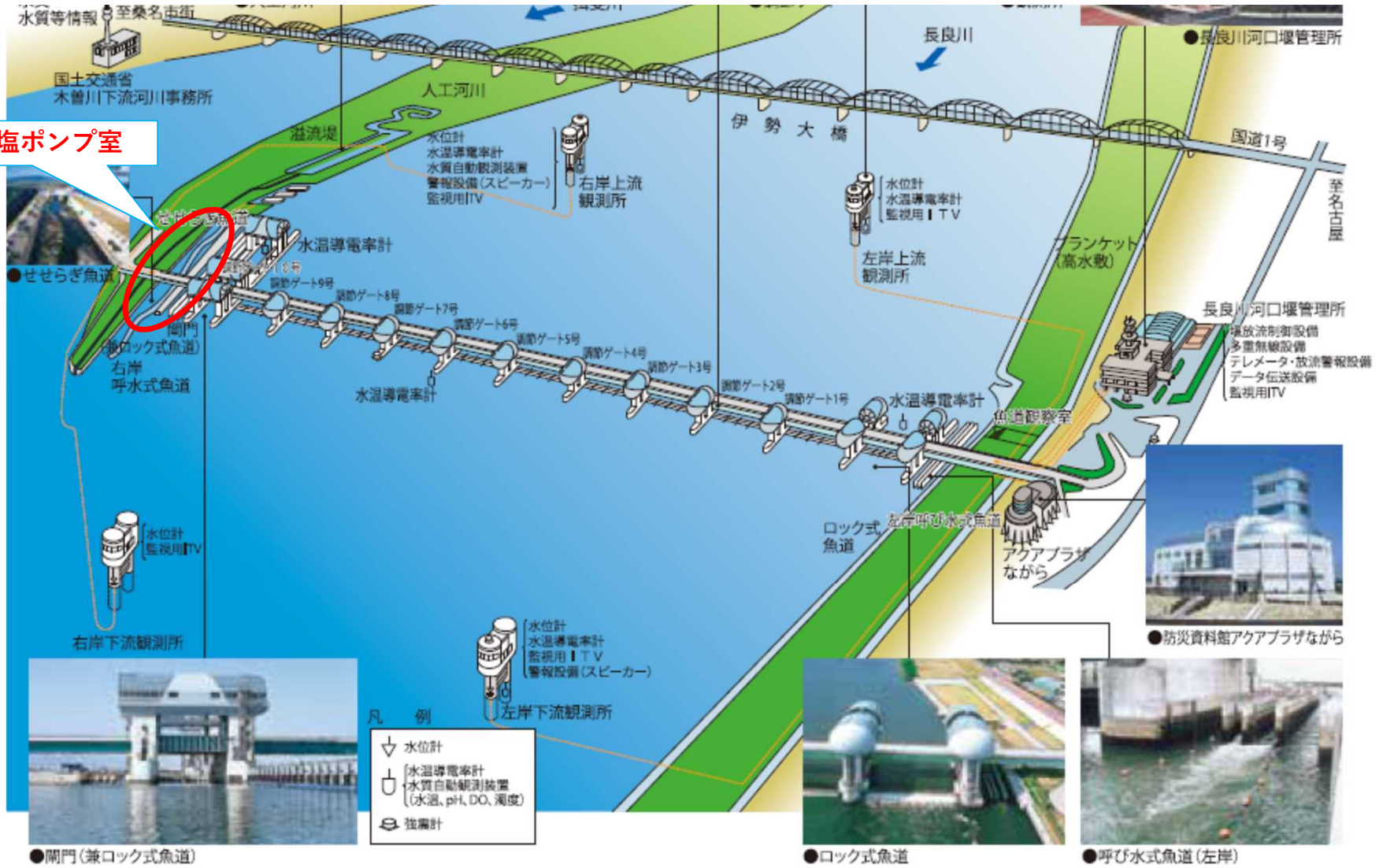
中部地方整備局記者クラブ	岐阜県政記者クラブ
三重県政記者クラブ	第二県政記者クラブ（三重県）
桑名記者クラブ	

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 長良川河口堰管理所 副所長 松森（まつもり）
住 所：三重県桑名市長島町十日外面136
電 話：0594（42）5012

【参考】 閘門 除塩ポンプ室 位置図

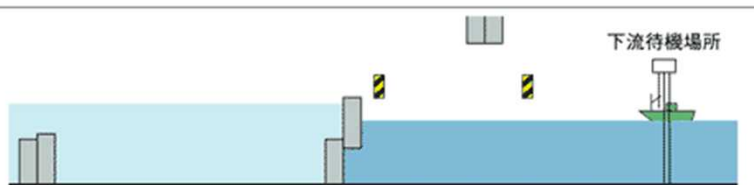
閘門 除塩ポンプ室



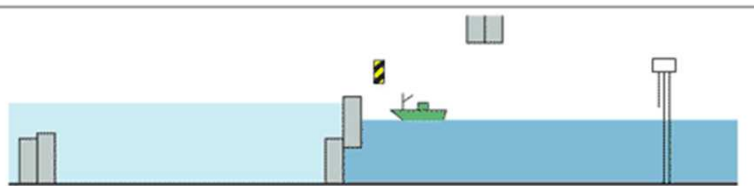
通航の方法

(喫水1.3m以内の小型船が小閘室を使用して下流から上流に向かう場合の例)

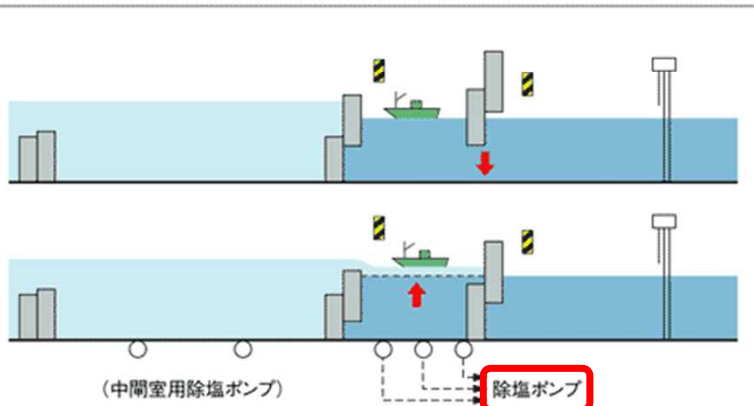
下流待機場所に船を横付けし、「呼出しロープ」を引き、その場で待機します。



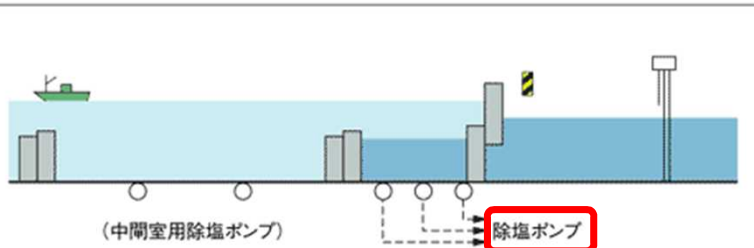
次に、遮断機が引き上げられ、信号機が赤から青に変わったら閘門内に入ります。



下流ゲートが下がった後に中間ゲートを下げて、上流側から水を入れて閘門内水位を上昇させます。
(同時に除塩ポンプを運転して、上層部を淡水状態とします。)



除塩ポンプを運転した状態で中間ゲートを下げ、遮断機が開いたら操作員の指示により閘門から出航します。



除塩ポンプ室



管路欠損状況